2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年10月30日

上場会社名　株式会社ブルボン　　上場取引所　東

コード番号　2208　ＵＲＬ　https://www.bourbon.co.jp/

代表者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）吉田　匡慶

問合せ先責任者　（役職名）取締役財務管理部長　（氏名）間島　孝弘　ＴＥＬ　0257-23-2333

半期報告書提出予定日　2026年11月６日　配当支払開始予定日　2026年12月７日

決算補足説明資料作成の有無　：　有

決算説明会開催の有無　：　無

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）　（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	56,343	6.5	1,954	31.6	2,280	45.4	1,584	40.4
2026年３月期中間期	52,929	3.2	1,485	△27.9	1,569	△23.7	1,128	△34.5

（注）包括利益 2027年３月期中間期　1,865百万円（18.9%）　2026年３月期中間期　1,569百万円（10.1%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	65.56	―
2026年３月期中間期	46.68	―

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2027年３月期中間期	99,802	68,541	68.7	2,835.77
2026年３月期	101,410	67,207	66.3	2,780.37

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　68,541百万円　2026年３月期　67,207百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	―	20.00	―	22.00	42.00
2027年３月期	―	22.00			
2027年３月期（予想）			―	22.00	44.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	126,600	5.2	6,400	△14.6	6,800	△15.0	4,700	△20.5	194.45

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

連結業績予想の修正については、本日（2026年10月30日）公表いたしました「2027年３月期第２四半期（中間期）連結業績予想と実績値との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更：　無

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：　無

②　①以外の会計方針の変更　：　無

③　会計上の見積りの変更　：　無

④　修正再表示　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	27,700,000株	2026年３月期	27,700,000株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	3,529,684株	2026年３月期	3,527,944株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	24,171,119株	2026年３月期中間期	24,174,190株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 4
（３）当中間期のキャッシュ・フローの概況 …… 4
（４）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 4
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 5
（１）中間連結貸借対照表 …… 5
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 7
中間連結損益計算書 …… 7
中間連結包括利益計算書 …… 8
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 9
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 10
（セグメント情報等の注記） …… 10
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 10
（継続企業の前提に関する注記） …… 10

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、不安定な海外情勢や為替円安に起因した物価上昇圧力の継続によって力強さを欠くものの、雇用・所得環境の改善および個人消費の持ち直しの動きがみられたことなどから、総じて緩やかな回復基調で推移しました。

菓子・飲料・食品業界は、消費者の節約志向が継続する状況下でニーズへの的確な対応が求められていることに加え、原材料などの各種調達価格および人件費や物流費などの価格上昇への対応が続きました。

このような中、当社グループでは、2027年３月期を初年度とする３か年を対象とした中期経営計画を策定し、品質保証第一主義のもと、食を中心とした「心と身体の健康増進への貢献」によって社会に役立つ企業を目指し、当社の課題であり重点取組事項とした「強さの再構築」に向けて、事業成長と収益力向上、生産体制の再構築、人財育成と健康経営に取り組んでおります。

その結果、当中間連結会計期間の売上高につきましては、国内菓子事業における主力のビスケットカテゴリーの順調な推移等により、前年同期を上回りました。

	前中間連結会計期間 （百万円）	当中間連結会計期間 （百万円）	伸長率 （%）	構成比 （%）
国内	50,352	53,542	106.3	95.0
国内菓子	48,037	51,141	106.5	90.8
飲料・食品・冷菓・酒類・その他	2,315	2,401	103.7	4.3
海外（輸出含む）	2,576	2,801	108.7	5.0
連結売上高	52,929	56,343	106.5	100.0

利益面では、中東情勢の影響を受け、資材価格は上昇しているものの、売上高の伸張や設備更新等による生産性の向上とコストの削減、経費の効率的な使用に継続して努めたことから、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益のいずれも前年同期を上回りました。

	前中間連結会計期間 （百万円）	当中間連結会計期間 （百万円）	伸長率 （%）
営業利益	1,485	1,954	131.6
経常利益	1,569	2,280	145.4
親会社株主に帰属する中間純利益	1,128	1,584	140.4

各事業およびカテゴリーの概況は次のとおりであります。

＜国内菓子＞

国内菓子では、節約志向が続く中で、ロングセラー商品の安心感とお求めやすい価格帯の商品を基軸とした商品展開にご支持をいただいたことなどから、ビスケットカテゴリーをはじめチョコレート、豆菓子、米菓の各カテゴリーやプチシリーズ等が順調に推移し、売上高は前年同期を上回りました。

○ビスケットカテゴリーは、しっとりとくちどけのよいチョコレートケーキを、チョコレートでコーティングした個包装のケーキ「やみ～つ」を新発売しました。さらには、ロングセラー商品「シルベーヌ」では、巨峰ならではの芳醇な味わいを引き立たせた「シルベーヌ巨峰のショートケーキ」を発売し品揃えの強化を図りました。加えて、コクのあるまろやかな味わいの「クリームあ～んぱんおさつバター風味」を発売した“チョコあ～んぱん”シリーズが順調に推移しました。また、「アルフォート安納芋スイートポテト味」や「エリーゼ和栗モンブラン味」などの芋栗フェアや「ロアンヌバニラHW」などのハロウィン企画商品を展開し、カテゴリー活性化を図りご支持をいただきました。そのほか、“スタンダードビスケット”シリーズや「アルフォート」、「ルマンド」といったロングセラー商品、実質価値の高い大袋商品が順調に推移し、カテゴリー全体でも前年同期を上回りました。

○チョコレートカテゴリーは、クランチクレープを練り込んで焼き上げたチョコレート菓子「ショコロ」や長崎県五島列島産の安納芋をパウダーにして練り込んだ「おもちのひととき日本巡り蜜芋」を新発売しました。“アルフォートミニチョコレート”シリーズは、和栗モンブラン味や柚子抹茶など和素材を使用した商品を発売し品揃えの強化を図るとともに、新ＣＭや消費者キャンペーンを投入しブランドの活性化を図ったことで順調に推移しました。カテゴリー全体では、「エブリバーガー」等のチョコスナック商品群や「じゃがチョコリッチミルク」を発売したカップスナック商品群に加え、大袋商品も順調に推移したことから前年同期を上回りました。

〇キャンデーカテゴリーは、“フェットチーネグミ”シリーズで、上品な甘さとジューシーな味わいの「フェットチーネグミレッドキウイ味」を発売したことに加え、新たなＴＶＣＭを投入しシリーズの活性化を図りました。また、むにっとした食感のハードグミに大粒のパウダーをまとわせた「バウンシーグミシャインマスカット味」を発売し、新規ユーザーの獲得を図るとともに、カテゴリーの活性化に取り組みました。加えて、気温が高まる時期に合わせて「ミネラル塩飴」や「ミネラル塩グミソルティライチ味」の拡販を強化し、ニーズに合わせた商品展開に取り組みました。

しかしながらカテゴリー全体では、競争激化の影響等により既存品が伸び悩み、前年同期を下回りました。

〇その他菓子カテゴリーは、豆菓子カテゴリーでは、「味ごのみ」でソース風味に仕上げた期間限定商品を発売したことに加え、既存の「味ごのみ」が順調に推移しました。また、５種類の豆菓子を詰め込んだ「豆じまん」を発売し、品揃えの強化を図りました。米菓カテゴリーは、圧倒的なカリカリ食感に仕上げた“ビールに合うに決まってる”シリーズ２品を発売し、おつまみ需要に合わせた商品展開を実施しました。さらには、節約志向の影響から、お求めやすい価格で選ぶ楽しさを提供するプチシリーズも順調に推移しました。

＜飲料・食品・冷菓・酒類・その他＞

飲料・食品・冷菓・酒類・その他の売上高は、粉末ココアや栄養機能食品等の食品カテゴリーが全体をけん引し、前年同期を上回りました。

〇飲料カテゴリーは、「牛乳でおいしくこだわりココア缶１８０」が取り扱い拡大に伴い伸張しました。また、ミネラルウォーター商品群においてキャラクタープリントの商品にご支持をいただきました。

〇食品カテゴリーは、「ミルクココア」を始めとした粉末ココア商品が、取り扱いの拡大を受け伸張しました。さらには、“かんたんクッキング”シリーズに、砂糖とバターの食感を楽しめる「魅惑のシュガーバタートースト風シート」を発売し、品揃えの強化を図りました。機能性食品群においては、忙しい合間にもフルーツの味わいが楽しめ、同時に鉄分・カルシウム・食物繊維を補えるソフトクッキー“みちたりプラス”２品を発売しました。加えて、“スローバー”シリーズや“プロテインバー”シリーズにもご支持をいただきました。

〇冷菓カテゴリーは、新潟県産のブランドさつまいも“いもジェンヌ”のペースト使用量を昨年よりも増やした「いもジェンヌアイス」、「ルマンドアイスいもジェンヌ」を発売しご支持をいただきました。また、昨年より試験的に展開しているチルドデザート“ルマンドクレープ”を、新潟県内限定で販売しました。

〇酒類カテゴリーは、限定醸造ビール「シトラストラタリゾートラベラー」を発売し、エチゴビールブランドの底上げを図り順調に推移しました。さらには、飲食店ルート向け商品なども順調に推移しました。

〇その他では、通信販売事業は、一部商品で需要の伸び悩みがあったものの、季節や催事に合わせた詰合せ商品等のオリジナル企画に取り組み、品揃えと買い上げ点数の増加を図りました。自動販売機事業は、設置場所に合わせた商品展開等を図り自動販売機１台当たりの収益性向上に努めたほか、新規設置の獲得に注力しました。

＜海外＞

海外部門の売上高は、前年同期を上回りました。

“アルフォート”や“フェットチーネグミ”など日本国内での認知が高い菓子商品、アメリカを中心としたエチゴビール商品の輸出展開に加え、現地小売業との取り組みを通じたシェア拡大に取り組みました。また、中国・アメリカの現地法人では、対象国内での認知向上と現地小売業の開拓を進めるとともに、前期設立したベトナム法人では、現地スタッフの採用などを通して体制の構築を進めつつ、現地小売業の新規開拓や関係強化を図りました。

（２）当中間期の財政状態の概況

（資産）

当中間連結会計期間末における流動資産は49,095百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,960百万円減少となりました。これは主に、季節変動要因による受取手形及び売掛金の減少があったことによるものです。固定資産は50,707百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,352百万円増加となりました。これは主に、設備投資に伴う有形固定資産の取得および投資有価証券の増加があったことによるものです。

この結果、総資産は99,802百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,607百万円減少となりました。

（負債）

当中間連結会計期間末における流動負債は23,841百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,748百万円減少となりました。これは主に、季節変動要因による支払手形及び買掛金の減少および未払金ならびに未払費用の減少があったことによるものです。固定負債は7,419百万円となり、前連結会計年度末に比べ192百万円減少となりました。

この結果、負債合計は31,261百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,941百万円減少となりました。

（純資産）

当中間連結会計期間末における純資産は68,541百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,334百万円増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する中間純利益の計上と剰余金の配当ならびにその他有価証券評価差額金の増加があったことによるものです。

この結果、自己資本比率は68.7％（前連結会計年度末66.3％）となりました。

（３）当中間期のキャッシュ・フローの概況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は15,901百万円となり、前連結会計年度末（20,826百万円）に比べ4,924百万円減少となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は1,203百万円（前年同期2,498百万円の支出、対前年同期比48.2％）となりました。これは主に、税金等調整前中間純利益2,224百万円および減価償却費2,660百万円と棚卸資産の増加額4,704百万円および法人税等の支払額1,485百万円があったことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は2,917百万円（前年同期2,693百万円の支出、対前年同期比108.3％）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出2,792百万円があったことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は839百万円（前年同期727百万円の支出、対前年同期比115.4％）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出155百万円およびリース債務の返済による支出152百万円ならびに配当金の支払額531百万円があったことによるものです。

（４）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2026年４月28日の「2026年３月期　決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日付けで「2027年３月期第２四半期（中間期）連結業績予想と実績値との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」を公表しておりますのでご参照ください。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,844	15,919
受取手形及び売掛金	15,157	12,218
商品及び製品	5,643	8,370
仕掛品	1,137	1,237
原材料及び貯蔵品	8,508	10,400
その他	773	956
貸倒引当金	△9	△8
流動資産合計	52,055	49,095
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	17,676	17,491
機械装置及び運搬具（純額）	13,000	13,982
その他（純額）	9,294	9,249
有形固定資産合計	39,971	40,723
無形固定資産		
のれん	405	348
その他	869	886
無形固定資産合計	1,275	1,234
投資その他の資産		
その他	8,108	8,749
投資その他の資産合計	8,108	8,749
固定資産合計	49,354	50,707
資産合計	101,410	99,802

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,059	11,119
短期借入金	810	810
１年内償還予定の社債	300	300
未払法人税等	1,646	933
賞与引当金	1,582	1,933
その他	10,190	8,744
流動負債合計	26,590	23,841
固定負債		
長期借入金	1,745	1,590
役員退職慰労引当金	297	271
退職給付に係る負債	4,506	4,541
負ののれん	5	5
その他	1,056	1,012
固定負債合計	7,612	7,419
負債合計	34,202	31,261
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	7,108	7,108
利益剰余金	58,930	59,982
自己株式	△903	△903
株主資本合計	66,171	67,224
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,724	2,242
為替換算調整勘定	△1,162	△1,334
退職給付に係る調整累計額	473	409
その他の包括利益累計額合計	1,035	1,316
純資産合計	67,207	68,541
負債純資産合計	101,410	99,802

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	52,929	56,343
売上原価	40,586	42,559
売上総利益	12,342	13,784
販売費及び一般管理費	10,857	11,829
営業利益	1,485	1,954
営業外収益		
受取利息	20	41
受取配当金	54	88
持分法による投資利益	－	0
為替差益	－	80
負ののれん償却額	0	0
その他	76	150
営業外収益合計	152	362
営業外費用		
支払利息	18	25
持分法による投資損失	8	－
為替差損	20	－
減価償却費	6	4
その他	13	6
営業外費用合計	68	36
経常利益	1,569	2,280
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	64	1
特別利益合計	65	1
特別損失		
固定資産処分損	1	1
減損損失	1	17
投資有価証券評価損	37	27
その他	－	11
特別損失合計	40	58
税金等調整前中間純利益	1,593	2,224
法人税、住民税及び事業税	496	796
法人税等調整額	△30	△156
法人税等合計	465	639
中間純利益	1,128	1,584
親会社株主に帰属する中間純利益	1,128	1,584

（中間連結包括利益計算書）

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純利益	1,128	1,584
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	419	517
為替換算調整勘定	67	△172
退職給付に係る調整額	△46	△63
その他の包括利益合計	440	281
中間包括利益	1,569	1,865
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	1,569	1,865
非支配株主に係る中間包括利益	－	－

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,593	2,224
減価償却費	2,629	2,660
のれん償却額	57	57
受取利息及び受取配当金	△75	△130
負ののれん償却額	△0	△0
支払利息	18	25
持分法による投資損益（△は益）	8	△0
為替差損益（△は益）	14	△65
投資有価証券売却損益（△は益）	△64	△1
固定資産処分損益（△は益）	0	1
減損損失	1	17
投資有価証券評価損益（△は益）	37	27
売上債権の増減額（△は増加）	3,824	2,944
棚卸資産の増減額（△は増加）	△5,655	△4,704
仕入債務の増減額（△は減少）	△1,406	△947
未払費用の増減額（△は減少）	△1,322	△1,312
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	△4	△26
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	△95	△58
その他	△559	△530
小計	△997	177
利息及び配当金の受取額	75	130
利息の支払額	△18	△25
法人税等の支払額	△1,557	△1,485
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,498	△1,203
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,605	△2,792
投資有価証券の取得による支出	△85	△6
投資有価証券の売却による収入	73	2
関係会社出資金の払込による支出	△44	－
その他	△30	△120
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,693	△2,917
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△155	△155
リース債務の返済による支出	△124	△152
配当金の支払額	△447	△531
財務活動によるキャッシュ・フロー	△727	△839
現金及び現金同等物に係る換算差額	△11	36
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△5,930	△4,924
現金及び現金同等物の期首残高	17,391	20,826
現金及び現金同等物の中間期末残高	11,460	15,901

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（セグメント情報等の注記）

当社グループの事業は、食品製造企業として同一セグメントに属する、ビスケット類、米菓類等の菓子及び飲料食品等の食料品の製造・販売並びにこれらの付随業務であり、単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。